

4. 須恵町の現状分析

(1) 人口

1) 人口・世帯数の推移

須恵町の人口・世帯数は、近年緩やかに増加傾向にあり、直近 10 年間で、人口は 1.06 倍、世帯数は 1.19 倍に増加している。

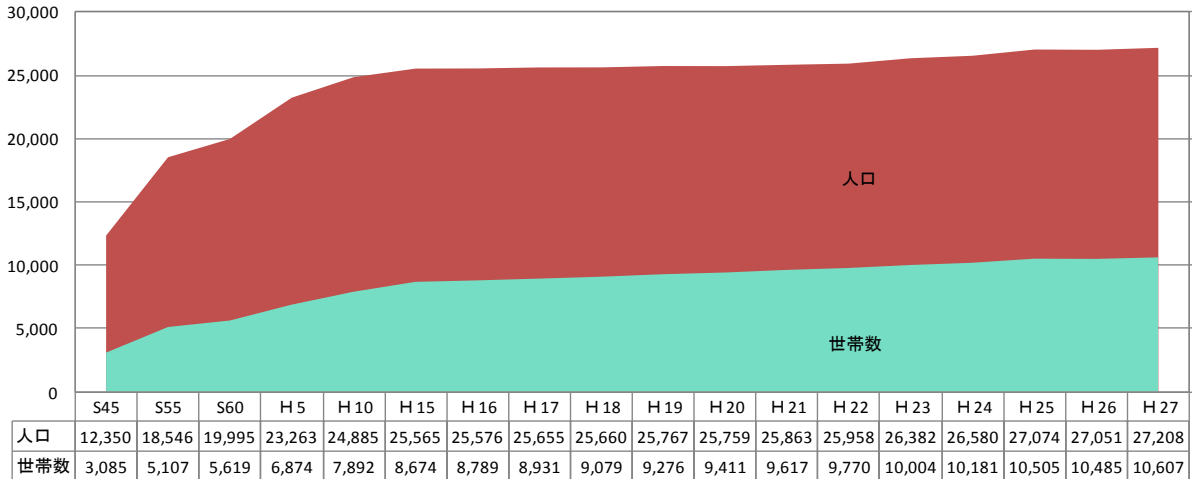


図 3 人口・世帯数の推移（資料：須恵町HPおよび福岡県HP）

2) 3小学校区別人口推移

3小学校区別の最近の人口推移は、須恵第一小学校区および須恵第二小学校区が微増であり、須恵第三小学校区は、横ばいとなっている。

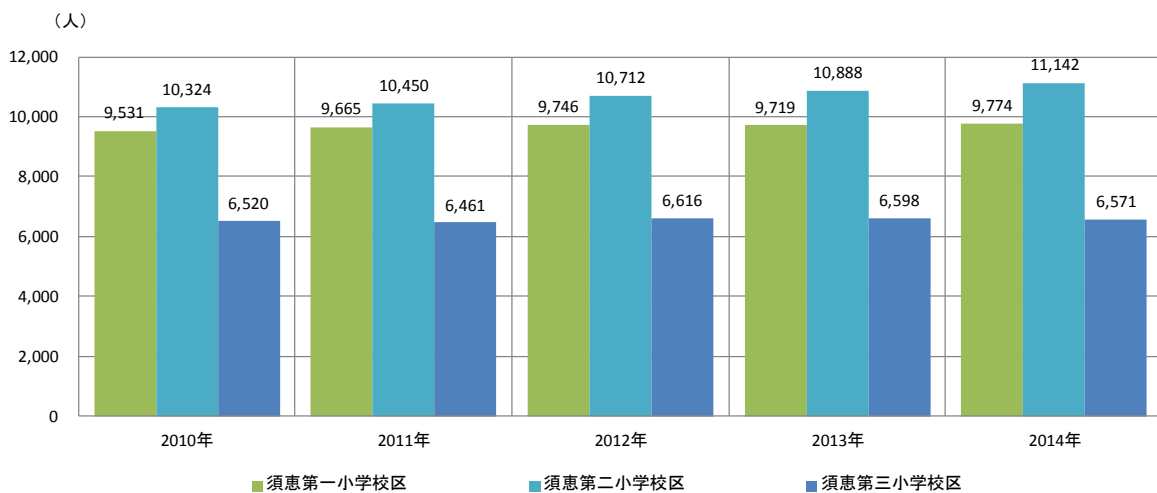


図 4 3小学校区別人口推移（資料：須恵町資料）

3) 小地域項目別の人口推移

平成 7 年と平成 22 年の国勢調査の小地域に基づく人口推計においては、「佐谷地区」、「旅石地区」がやや減少傾向、その他の地区はやや増加傾向にあり、全体的に緩やかな増加傾向となっている。

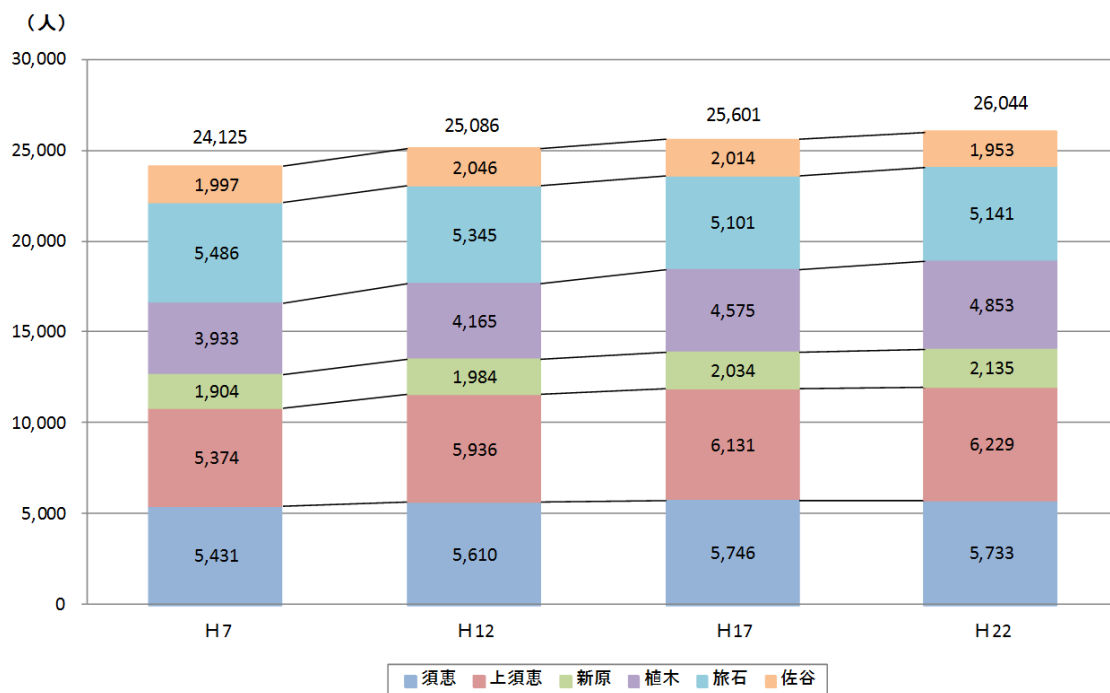


図 5 国勢調査の小地域項目別の人口推移（資料：国勢調査）

4) 年齢別人口推移

国勢調査に基づく年齢別人口推移では、年少人口（14歳未満）および生産年齢人口（15～64歳）が平成12年（2000年）以降、若干の減少傾向となっている。老年人口（65歳以上）の割合は、増加傾向となっている。

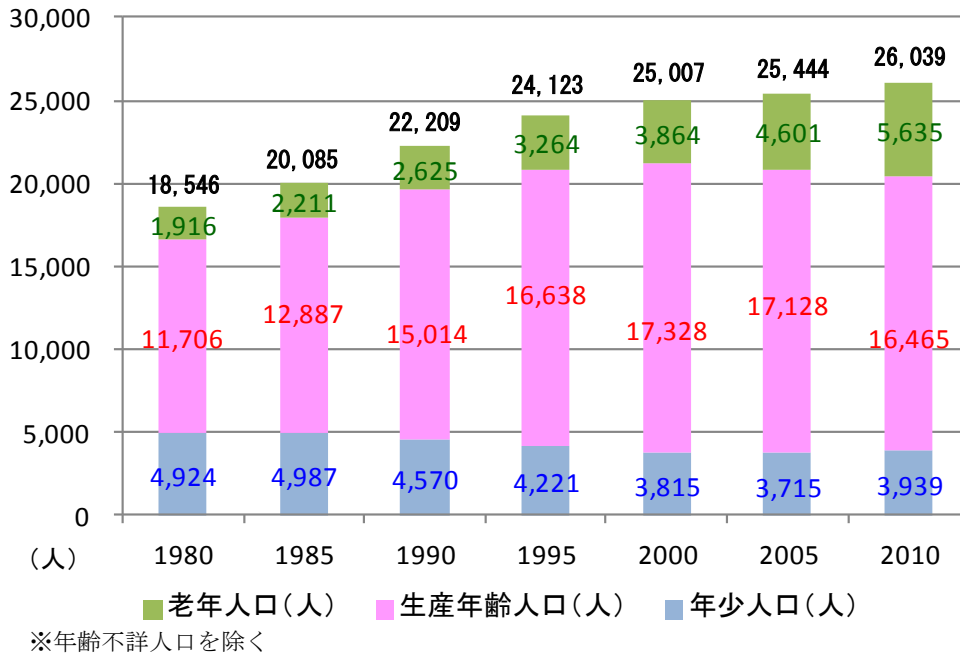


図 6 年齢別人口（資料：国勢調査）

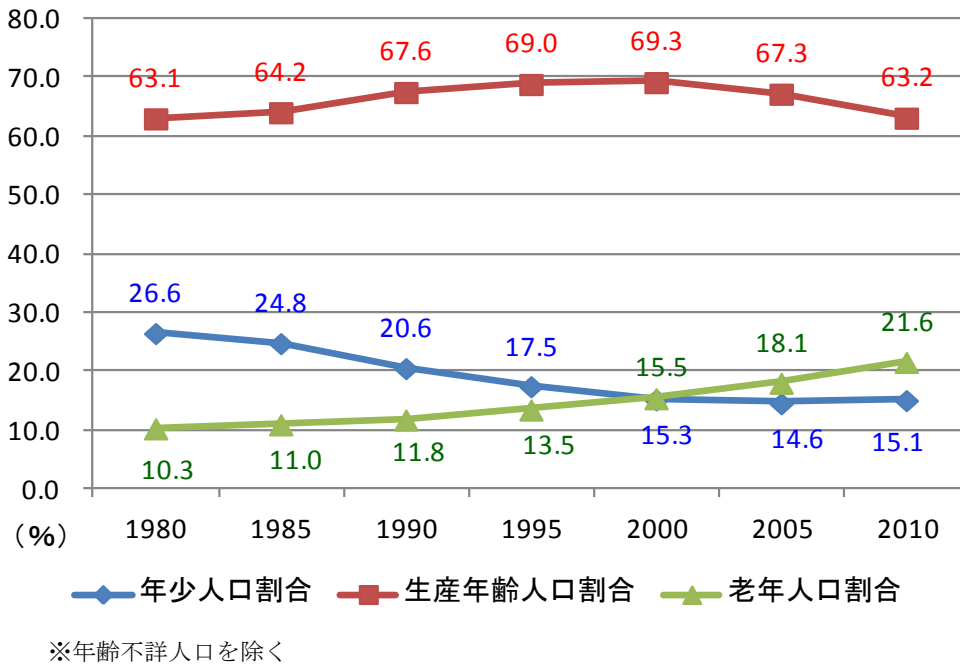


図 7 年齢別人口（資料：国勢調査）

5) 年齢別人口ピラミッド

平成 17 年と平成 27 年の年齢別人口ピラミッドの比較においては、年齢構成がそのまま推移し、60 歳以上の高齢者が増える一方、9 歳未満の人口が増加し、今後も人口の維持が期待される。

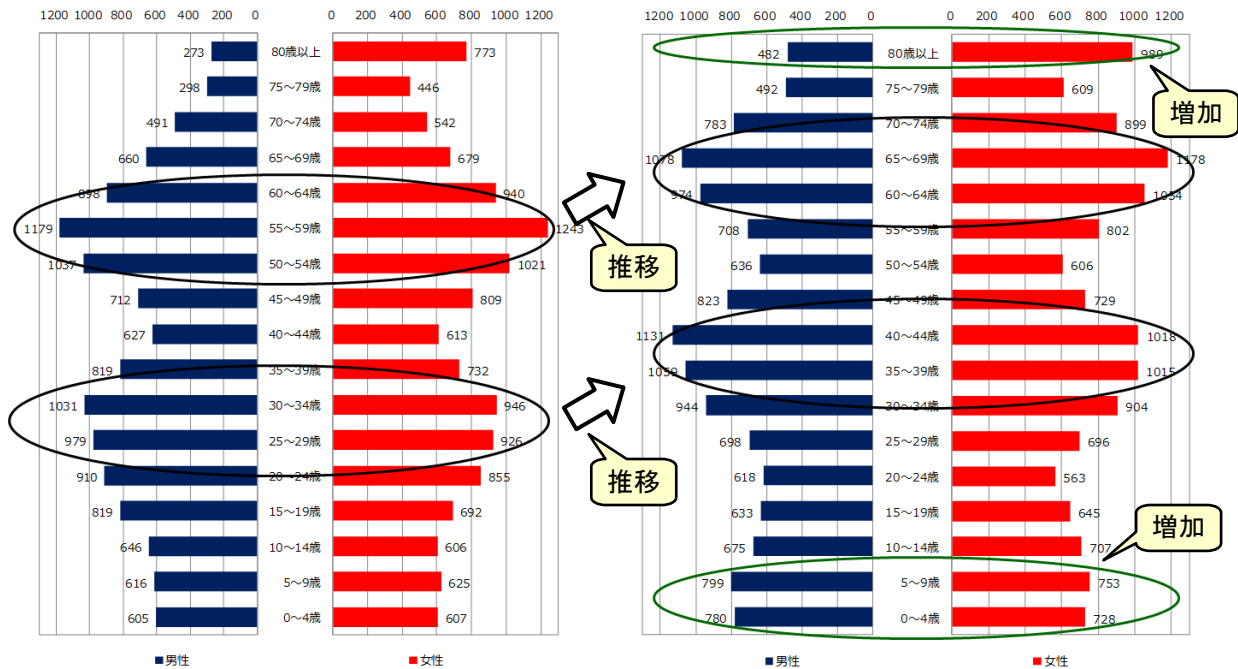


図 8 平成 17 年 3 月年齢別人口ピラミッド・平成 27 年 1 月年齢別人口ピラミッド(外国人除く)

(資料：住民基本台帳人口データ (福岡県 HP))

6) 自然動態の推移

i) 出生者数・死亡者数の推移

人口の自然動態は、平成 11 年以降、出生者数が死亡者数を常に上回っており、自然増加が続いている。

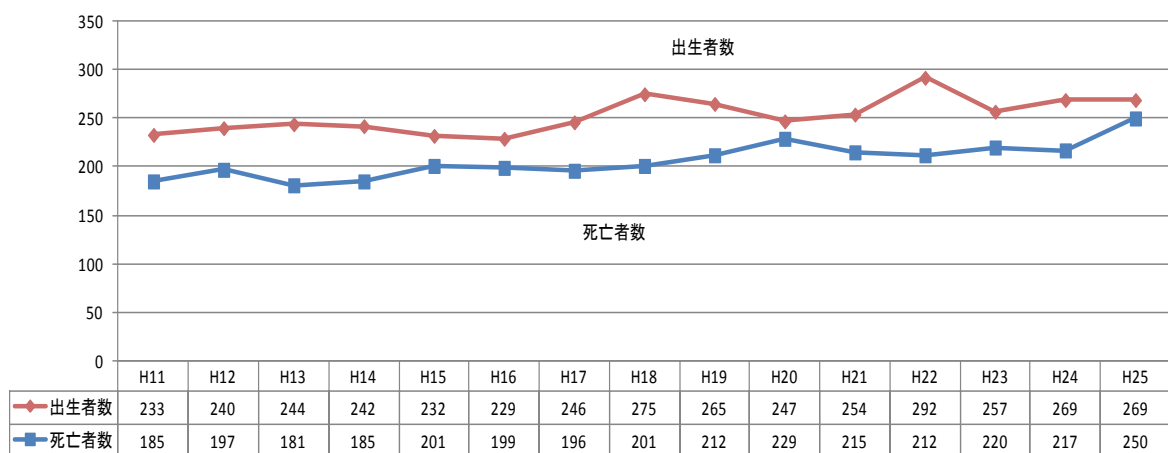
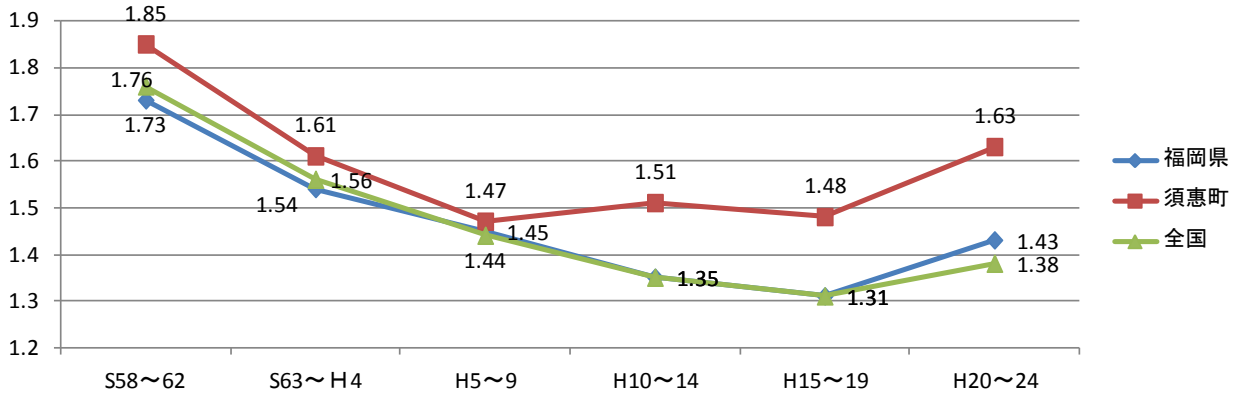


図 9 出生者数・死亡者数の推移 (資料：人口動態統計 (厚生労働省))

ii) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率は、平成4年までは減少傾向だが、平成5年以降は増加傾向となっている。

また、全国や福岡県の値より高く推移している。

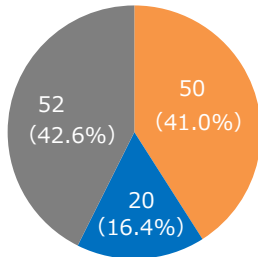


※平成14年以前の全国の値は、毎年の合計特殊出生率の平均値で算出。

図10 合計特殊出生率の推移（資料：人口動態保健所・市町村別統計（厚生労働省））

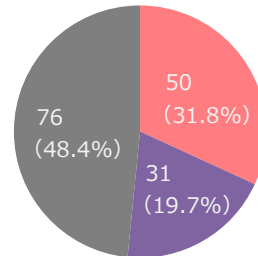
住民アンケートでは、出産意向は41.0%、結婚意向は31.8%、将来の子ども的人数は2人が、最も多い結果となった。

出産についての意向 (N=122)



■いずれ子どもがほしい ■子どもは作らないつもりだ ■わからない

結婚についての意向 (N=157)



■いずれ結婚するつもりだ ■結婚しないつもりだ ■わからない

図11 結婚についての意向
(資料：平成27年住民アンケート)

図12 出産についての意向
(資料：平成27年住民アンケート)

将来の子ども的人数 (N=42)

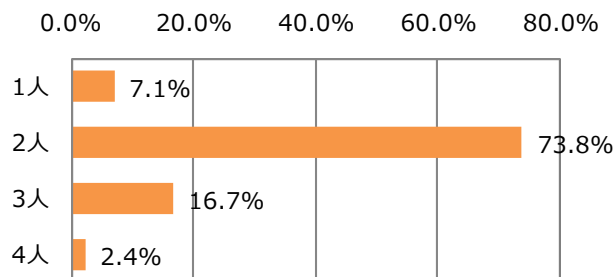


図13 将来の子ども的人数
(資料：平成27年住民アンケート)

7) 社会動態の推移

i) 転入者数・転出者数の推移

平成 11 年以降、転入者数と転出者数は、いずれも 1,200～1,500 人前後を、横ばいに推移している。また、平成 18 年から平成 20 年の 3 年間は、転出者が転入者を上回っているが、それ以外の年次は、転入者が上回っており、転入超過の状況が続いている。

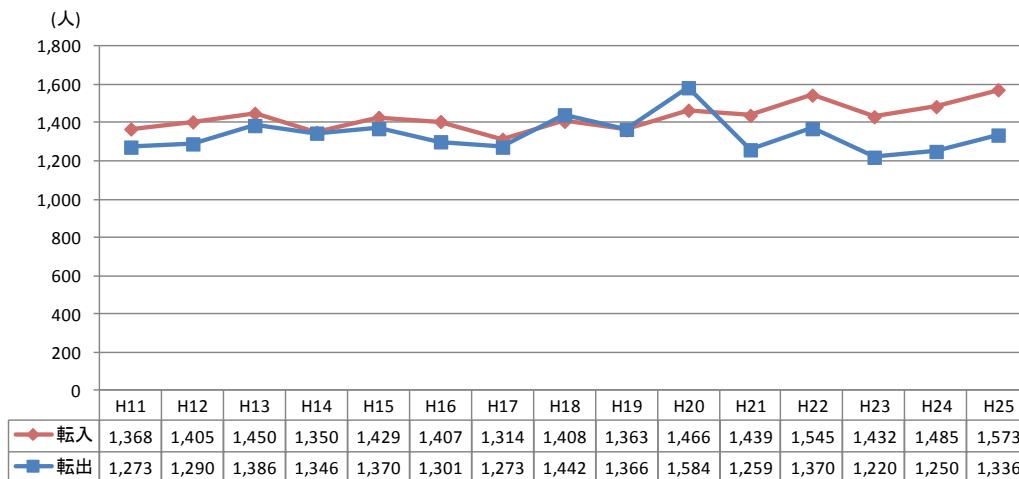


図 14 転入者数・転出者数の推移(資料：住民基本台帳移動報告(総務省))

ii) 転入者の移動前住所地

平成 26 年における転入者の移動前住所をみると、福岡県内(福岡市を除く)が 53.3%と最も多く、次いで福岡市が 25.2%、九州 6 県で 11.4%となっている。

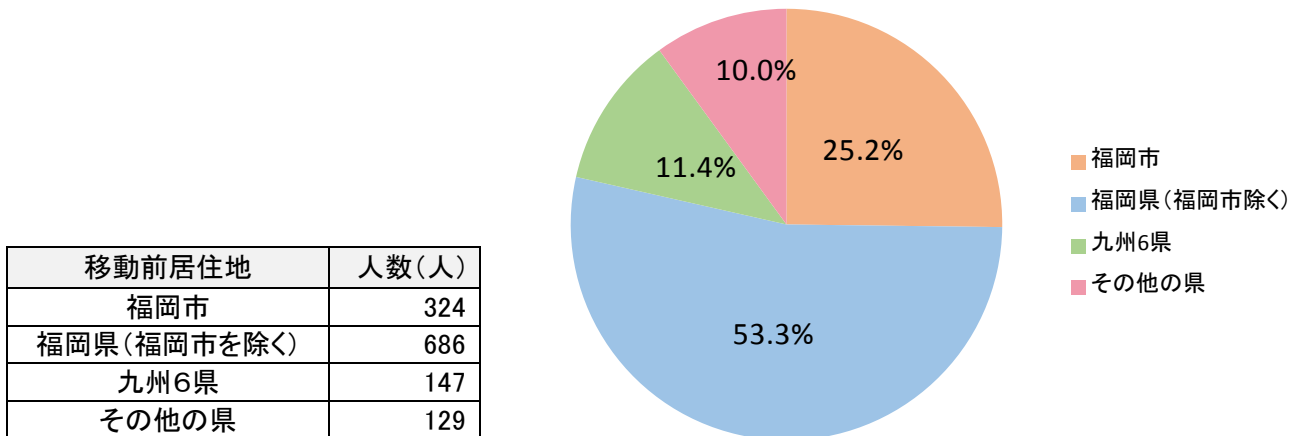


図 15 転入者の移動前住所地(平成 26 年)(資料：住民基本台帳移動報告(総務省))

(2) 産業

1) 産業（就業者の特徴）

i) 須恵町居住者の産業別就業者数の推移

須恵町に居住する就業者の人口推移は、平成7年以降、第三次産業の従事者数が増加傾向となる一方、第二次産業の従事者数は減少傾向となっている。第一次産業の就業者は少ない。

また、全体の就業者数は、平成17年をピークに、減少傾向となっている。

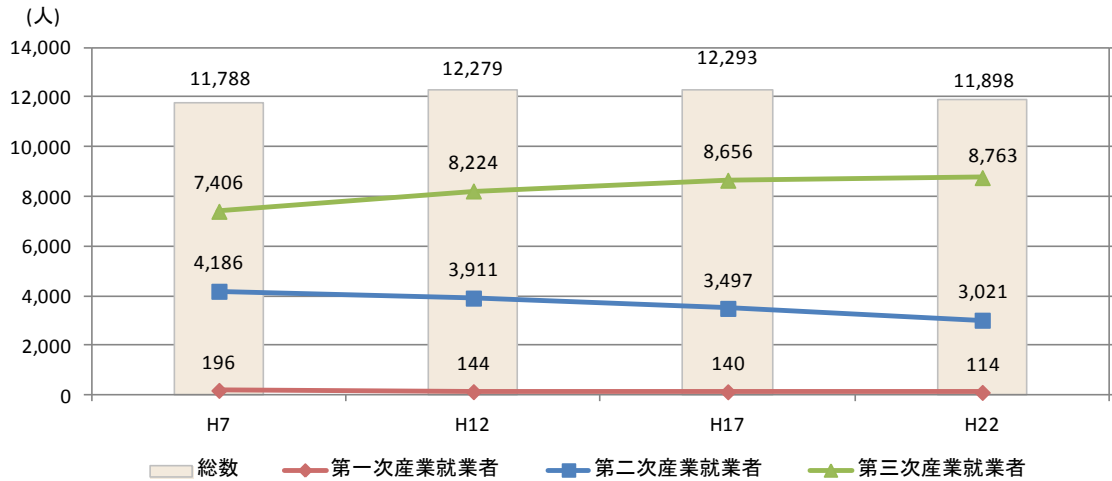


図 16 須恵町居住者の産業別就業者数の推移（資料：国勢調査（総務省））

ii) 須恵町での業務従事者の産業別就業者数の推移

須恵町で業務に従事する人口推移は、平成7年以降、第三次産業の従事者数が増加傾向となる一方、第二次産業の従事者数は減少傾向となっている。第一次産業の従事者は少ない。

また、全体の就業者数は、平成17年をピークに、減少傾向となっている。

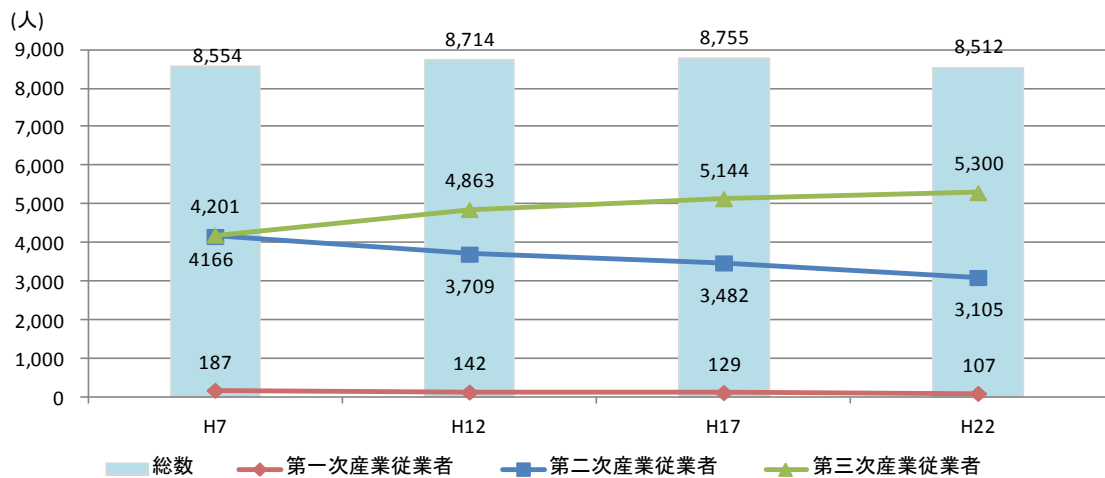
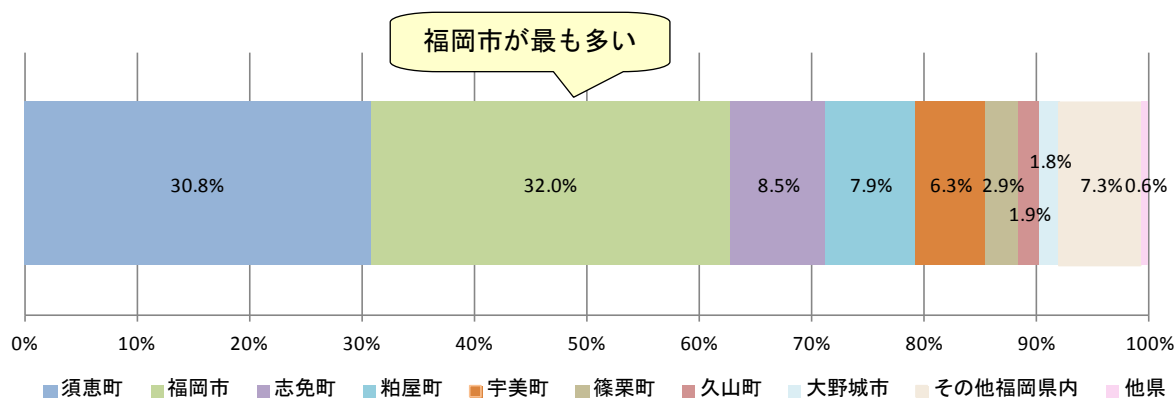


図 17 須恵町での業務従事者の産業別就業者数の推移（資料：国勢調査（総務省））

iii) 須恵町居住者の通勤先

須恵町に居住する就業者の通勤先は、福岡市が 32.0%と最も多く、次いで須恵町町内が 30.8%となった。その他、志免町が 8.5%、粕屋町が 7.9%、宇美町が 6.3%となっている。



市町村	人数(人)	割合 (%)
須恵町	3,597	30.8%
福岡市	3,727	32.0%
志免町	994	8.5%
粕屋町	919	7.9%
宇美町	738	6.3%
篠栗町	338	2.9%
久山町	219	1.9%
大野城市	209	1.8%
その他福岡県内	850	7.3%
他県	72	0.6%
計	11,663	100.0%

図 18 須恵町居住者の通勤先 (資料：平成 22 年度国勢調査 (総務省))

2) 産業（産業分類別の構造）

産業分類を見ると、須恵町は「建設業」、「製造業」、「運輸業、郵便業」の雇用が大きい。

i) 特化係数でみた産業構造の特徴

特化係数（産業大分類別の従業者構成比率を「全国値」「福岡県」で割った値）においては、「建設業」「製造業」「運輸・郵便業」が、1以上となり、他地域と比較してこれらが特に多くの雇用がみられる産業となっている。

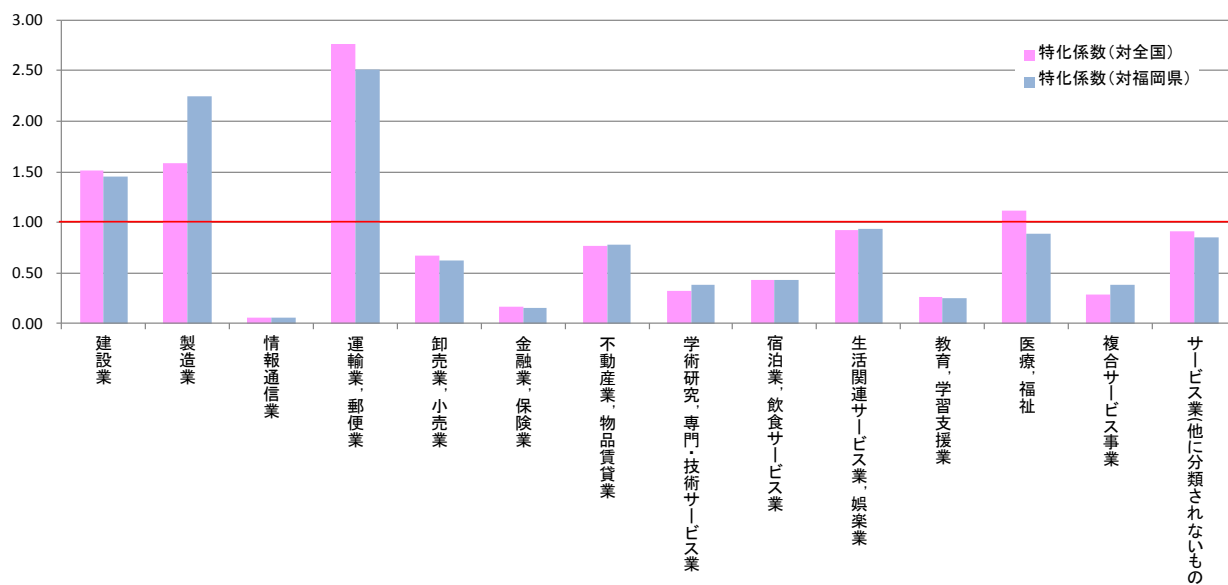


図 19 特化係数でみた産業構造（資料：平成 24 年度経済センサス（総務省））

3) 従業者数産業構成比

従業者数の比率で産業構成においては、「製造業」が 26.3%となり、次いで「運輸業・郵便業」が 16.4%となっている。

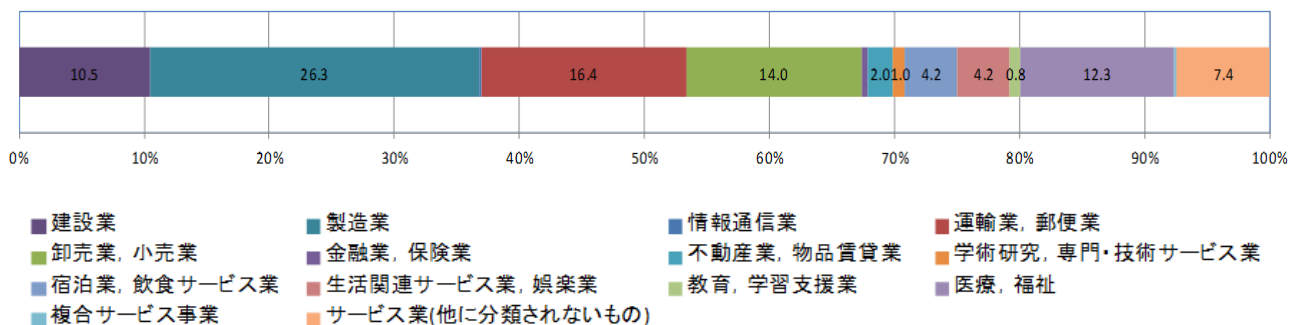
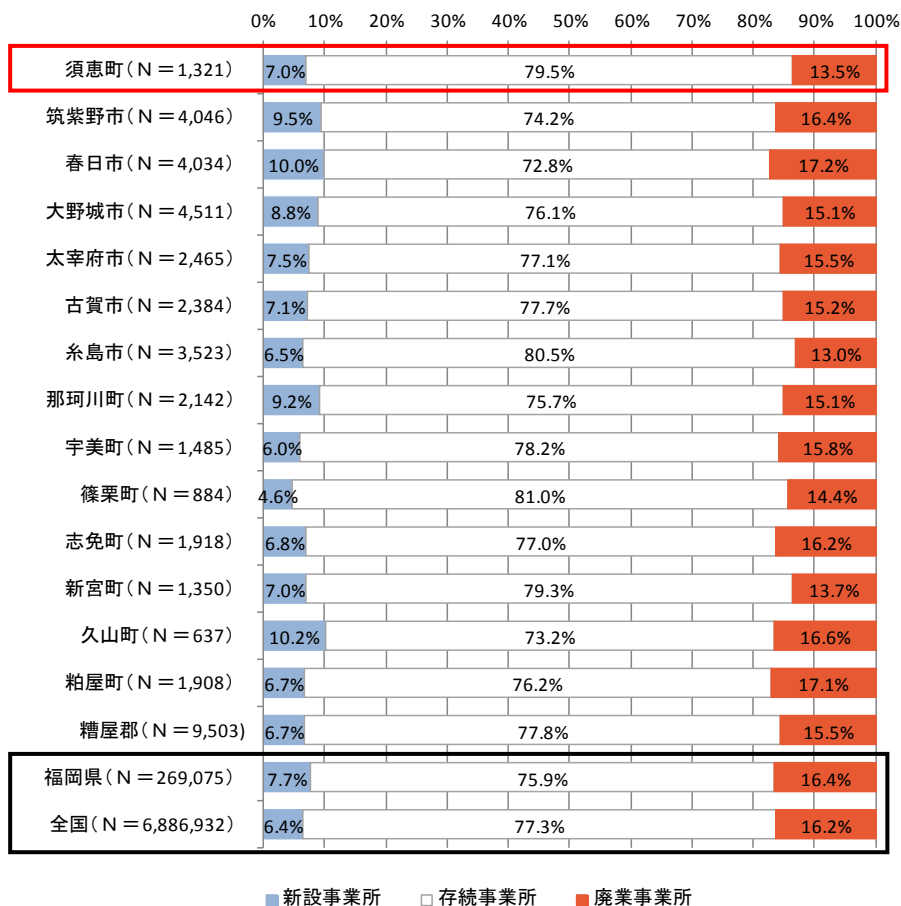


図 20 従業者数産業構成比（資料：平成 24 年度経済センサス（総務省））

4) 産業（事業継続力）

須恵町の廃業事業所の割合は13.5%であり、福岡県および全国よりも低くなっている。また、「新設事業所」の割合は福岡県よりも低いが、「廃業事業所」の割合も低く、比較的安定した企業が多い。



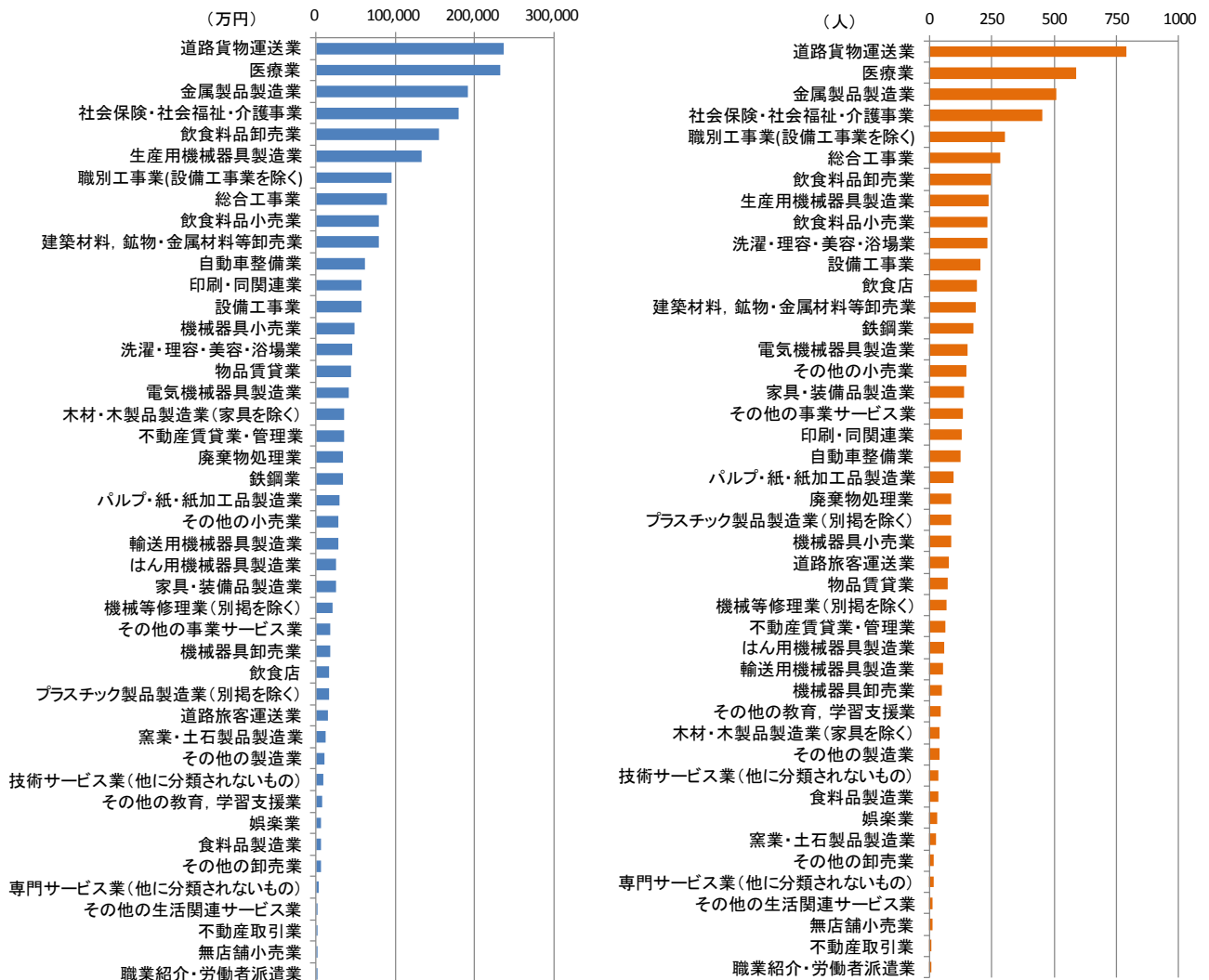
※廃業事業所において「不動産業・物品賃貸業」は、個人経営者が法人委託への切り替えなどで、廃業となっている可能性が高く、特異な値であると判断し、控除した。

図 21 須恵町および周辺市町村の新規・廃業・存続事業所率
(資料：平成 22 年度経済センサス)

上記データ的一方で、実際の現場では、町外に本社機能を有する企業からの買収などによって、町外へ撤退する動き企業もみられる。

5) 産業（付加価値額）

産業中分類別の付加価値額（※）では、「道路貨物運送業」や、「医療業」、「金属製品製造業」などが高く、町内への利益貢献度が高い分野となる。また、従業者数でも、同様に上記分野の企業が多く、多くの雇用創出に貢献していることが伺える。



(付加価値額)

(従業者数)

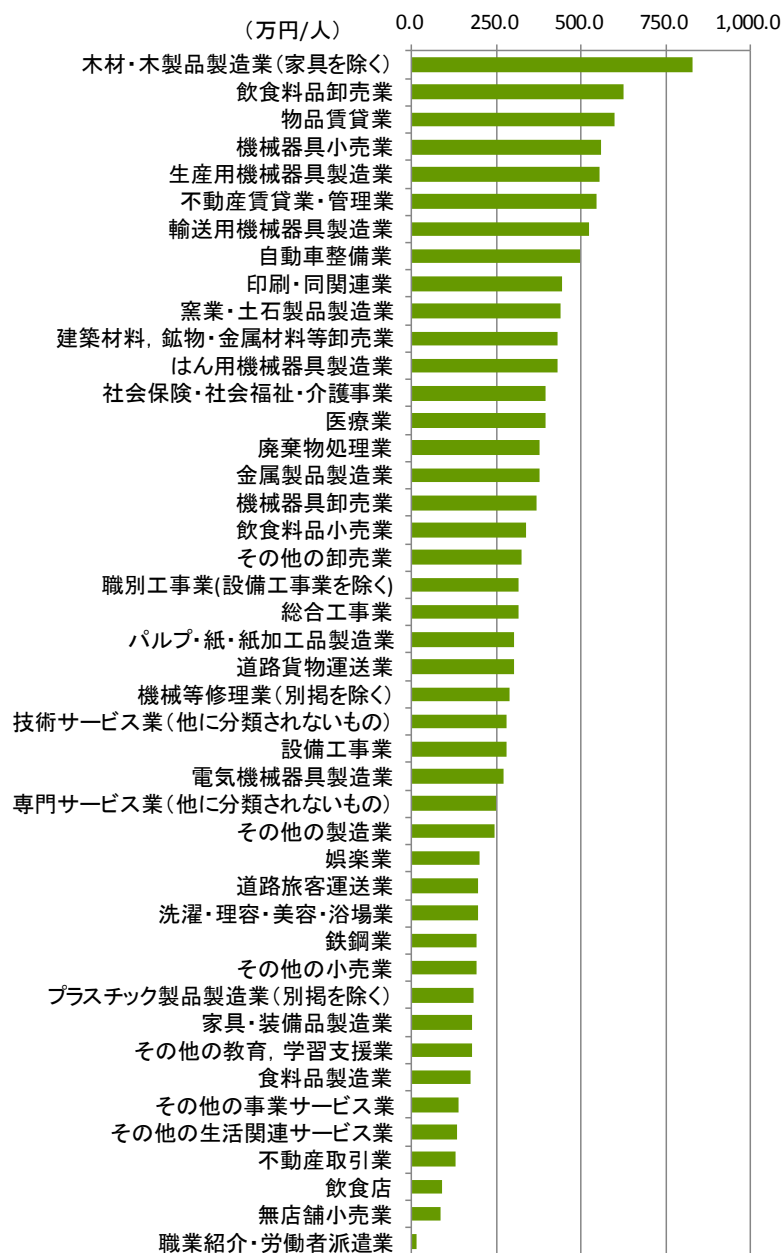
※付加価値額：売上額から、原材料費や仕入れ費などを差し引いた額（給与総額、租税公課は含む）。いずれも、企業統計の値となる。また秘匿となる産業分類は除く。

図 22 須恵町の産業中分類別の付加価値額と従業者数

(資料：平成 24 年度経済センサス（リーサスよりデータ収集）)

6) 産業（労働生産性）

労働生産性（＝付加価値額÷従業者数）では、「木材・木製品製造業（家具を除く）」や「飲食料品卸売業」、「物品賃貸業」が高く、効率的な生産を実施している分野となる。



※いずれも、企業統計の値となる。また秘匿となる産業分類は除く。

図 23 須恵町の産業中分類別の労働生産性
(資料：平成 24 年度経済センサス（リーサスよりデータ収集）)

(3) 住環境

1) 持ち家比率

住宅の「持ち家・借家」比率において、須恵町は持ち家比率が70.5%と高く、福岡県および全国と比較しても高い結果であり、町内への定住者が多いと推定される。

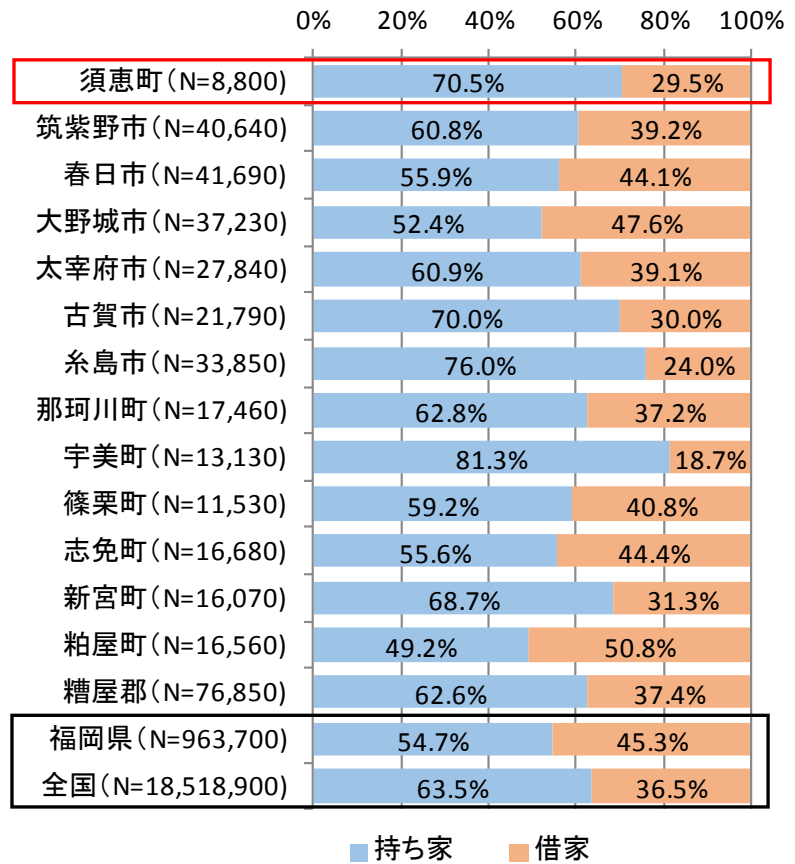


図 24 須恵町および周辺市町村の持ち家比率

(資料：平成 25 年度住宅・土地統計調査 (総務省))

2) 居住者の実態

居住者アンケートでは、居住年数で、「30年～」と回答した人が40%以上となり、多くの人が長く定住していることが伺えた。また、須恵町に住むきっかけでは、「家を購入したため」の回答者が40%と多くみられた。

居住年数 (N=830)

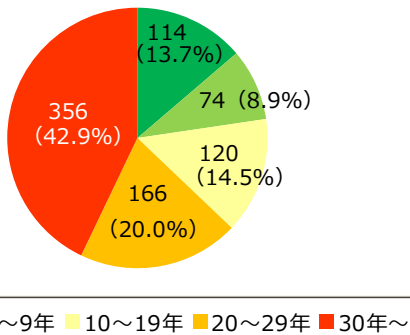


図 25 居住年数

(資料：平成 27 年住民アンケート)

須恵町に住むようになったきっかけ (N=827)

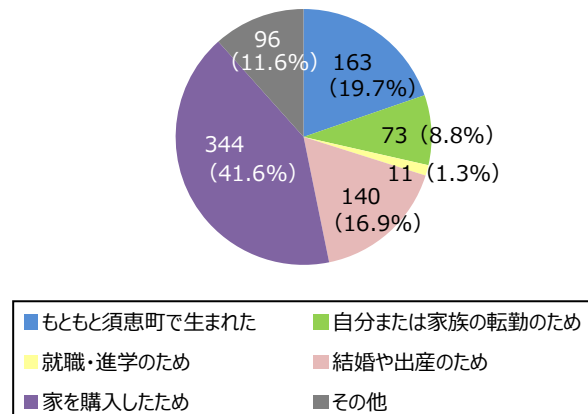


図 26 須恵町に住むようになったきっかけ

(資料：平成 27 年住民アンケート)

3) 最寄りの公民館・集会所までの距離

各住宅の最寄りの公民館・集会所までの距離において、須恵町は「250m未満」との回答が約60%と高く、福岡県および全国値と比較しても高い結果であり、コミュニティ活動を行いやすいと推定される。

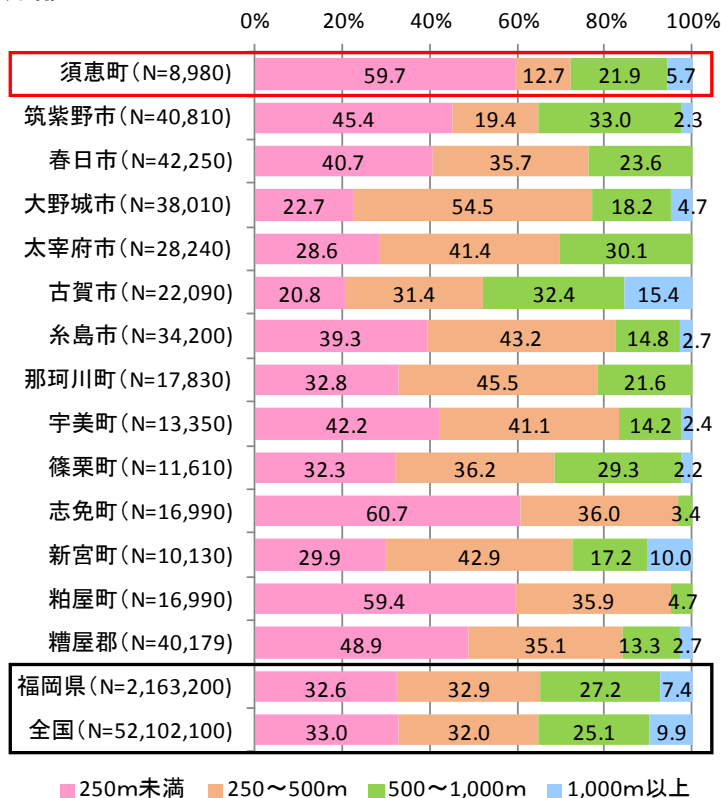


図 27 須恵町および周辺市町村の最寄りの公民館・集会所までの距離

(資料：平成 25 年度住宅・土地統計調査 (総務省))

4) 商業施設の数

須恵町および周辺地域の商業施設のグラフを以下に示した。小売店数は109店舗となり、他地域と比較して最も少なく、また、集客力のある大規模小売店は、町内で0店舗となっており、周辺地域へ買い物客が流出していると推定される。

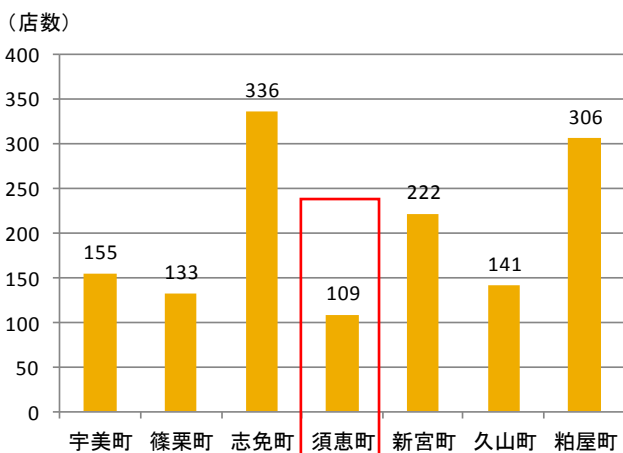


図 28 須恵町および周辺地域の小売店

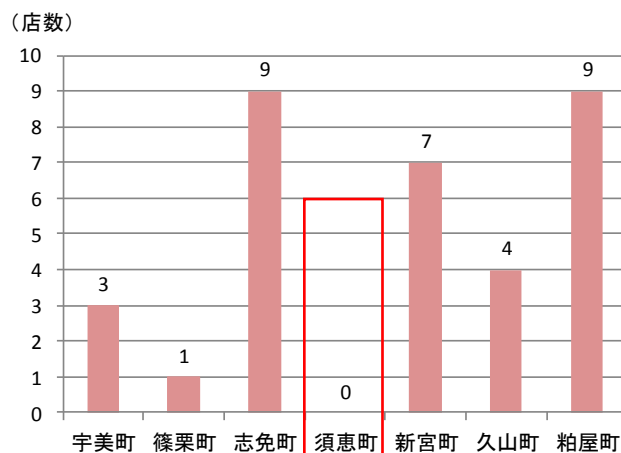


図 29 須恵町および周辺地域の大型小売店(※)

※大型小売店は従業者数が50人以上の店舗

(資料：平成 22 年年経済センサス (総務省))

5) 公共交通

鉄道は、須恵町内を JR 香椎線が横断しており、JR 須恵中央駅、JR 新原駅、JR 須恵駅が設置されている。バスは、福岡空港や福岡市内までをつなぐ 3 つのバス路線が運行されている。また、平成 22 年 2 月 1 日から須恵町コミュニティバスの運行が開始され、鉄道やバスが通らない地域の公共交通を補っている。

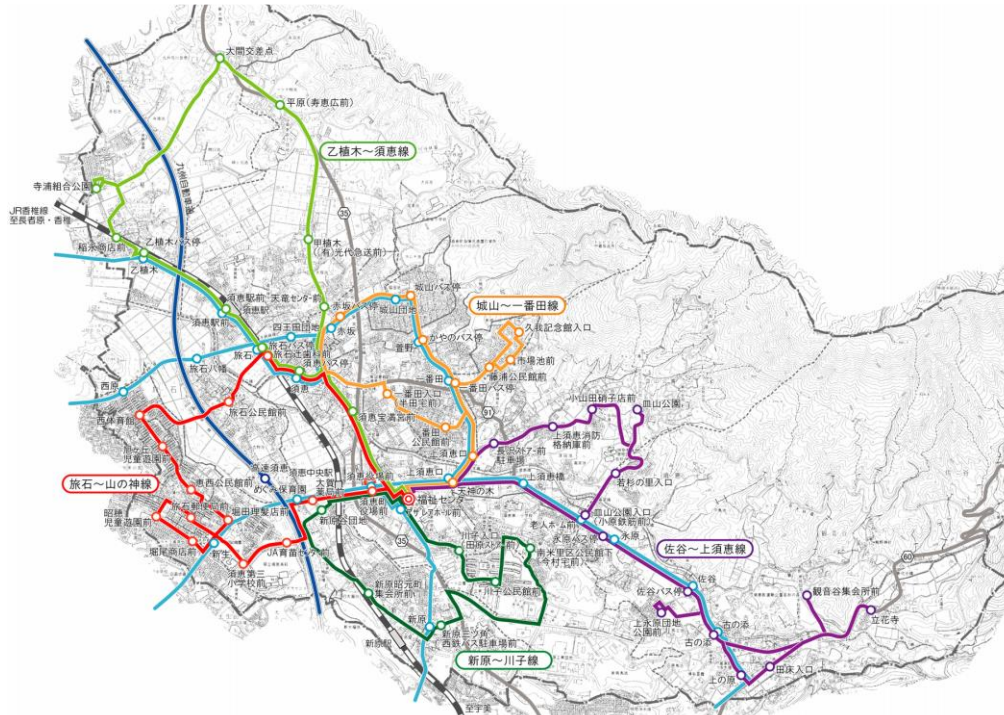


図 30 須恵町コミュニティバスマップ

コミュニティバスに対し、アンケート調査では、「本数が少ない」、「利用しづらい」などの意見がみられる。また、「交通が不便」との意見もみられることから、改善が必要となっている。

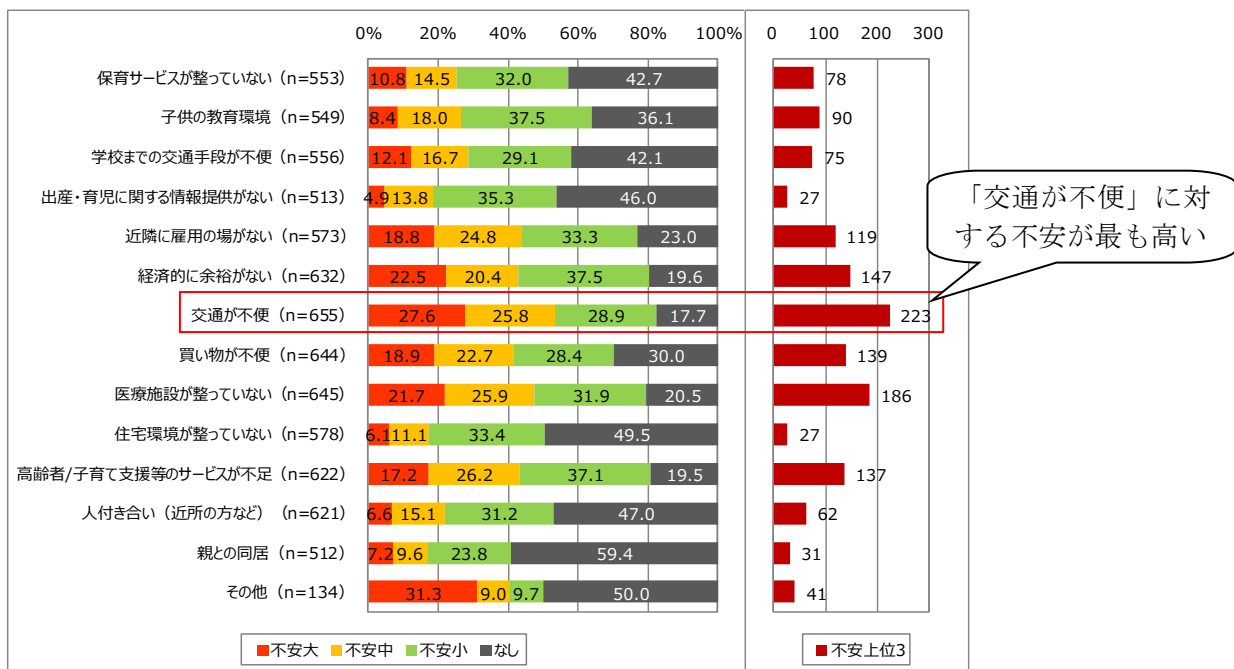


図 31 須恵町で暮らす上での不安 (平成 27 年住民アンケートより)

6) コミュニティ団体

須恵町は、住民で形成される団体や、まちづくり団体、校区コミュニティなど、多様なコミュニティ団体が活躍している。

表1 須恵町のコミュニティ団体

分類	所属
住民（親）	須恵第一小学校 PTA
	須恵第二小学校 PTA
	須恵第三小学校 PTA
	子ども会育成会連絡協議会
	子育て支援センター「ポケットクラブ」
まちづくり	共生のまちづくり推進協議会 高齢者支援部会
	共生のまちづくり推進協議会 子育て支援部会
	共生のまちづくり推進協議会 障がい者部会
	共生のまちづくり推進協議会 センター支援部会
	地域活性化センター（オイコス）（旧ボランティアセンター）
校区 コミュニティ	すこやかコミュニティ（第一小学校区）
	いきいきコミュニティ（第二小学校区）
	ふれあいレインボー（第三小学校区）
文化	須恵町文化協会
体育	須恵町体育協会
福祉	須恵校区老人クラブ連合会（愛称：はつらつシニア須恵）
	社会福祉法人 須恵町社会福祉協議会
	社会福祉法人 柚子の木福祉会
商工会	須恵町商工会
	企業クラブ
環境	須恵町堆肥供給センター

一方で、活動内容の形骸化や参加者の固定化により、新規加入者の減少や、会員の高齢化などの問題がみられる。

(4) 子育て・教育

1) 須恵町小中学生の学力

i) 全国学力・学習状況調査結果

平成 26 年度の全国学力・学習状況調査（※）の結果においては、須恵町の小学生は、国語Aが福岡県、全国結果より高く、算数Aは福岡県よりわずかに高い結果となっている。また中学生は、国語Bが、福岡県の結果よりわずかに高い結果となっている。

※平成 26 年 4 月 22 日（火）に実施された全国統一の学力テストで、小学校第 6 学年、特別支援学校小学部第 6 学年、中学校第 3 学年、中等教育学校第 3 学年、特別支援学校中学部第 3 学年を対象に実施している。

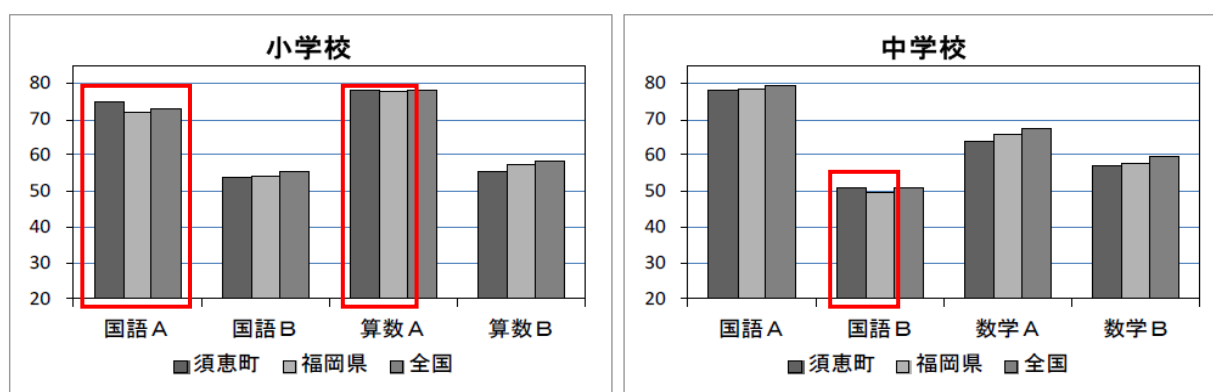


図 32 須恵町平成 26 年度の全国学力・学習状況調査結果

（資料：平成 26 年度全国学力・学習状況調査（福岡県））

参考：全国学力・学習状況調査の内容抜粋

主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]	主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

ii) 須恵町における教育面での実績

須恵町は、乳幼児から体系的な教育政策を継続的に実施している。

また、昭和 53 年度から実施しているオアシス運動（※）などの挨拶の取組が定着している。

一方で、これらの教育活動の成果を把握できず、成果の検証が出来ていないなどの課題がある。

※オアシス運動：挨拶に関する推進運動。「オ：おはようございます」、「ア：ありがとうございます」、

「シ：しつれいしました」、「ス：すみませんでした」。

2) 高等学校卒業者の進路

i) 高等学校卒業者の進路比率（市町村比較）

須恵町の大学進学者および専修学校など入学者を合わせると 94.2%であり、高い進学率となり、福岡県および全国を上回っている。

また、大学進学率は、62.7%となり、福岡県、全国を上回っている。

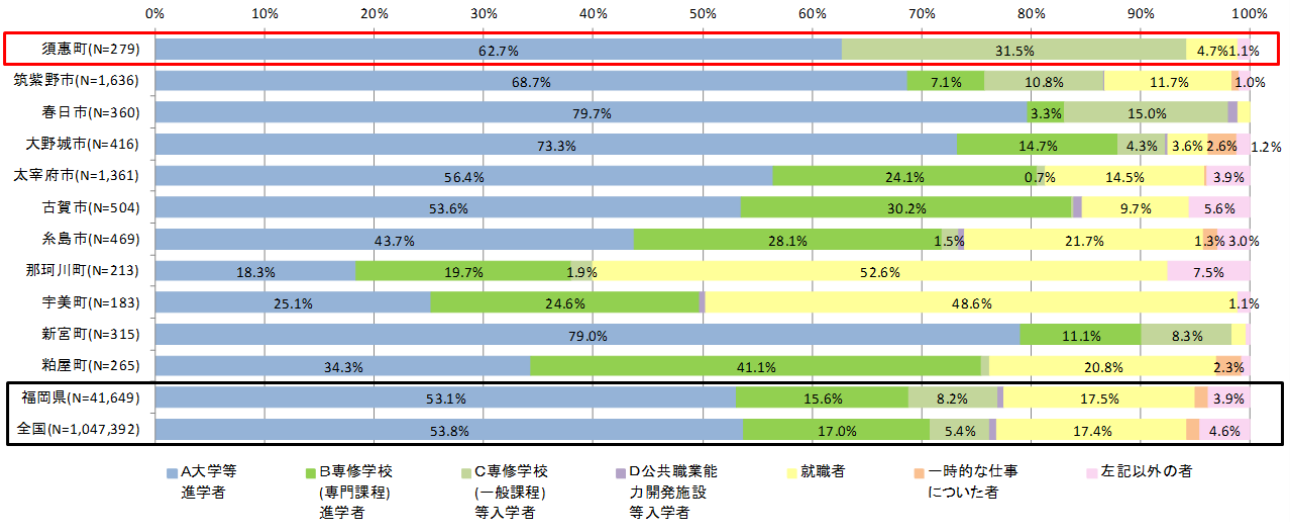


図 33 須恵町および周辺市町村の高等学校卒業者の進路比率

(資料：平成 26 年度学校基本調査（文部科学省）)

ii) 高等学校卒業者の進路推移（須恵町）

須恵町の高等学校卒業者の進学率の推移は、過去 5 年間に於いて、大学進学者が 6 割以上、専修学校進学者が 30%前後となっている。

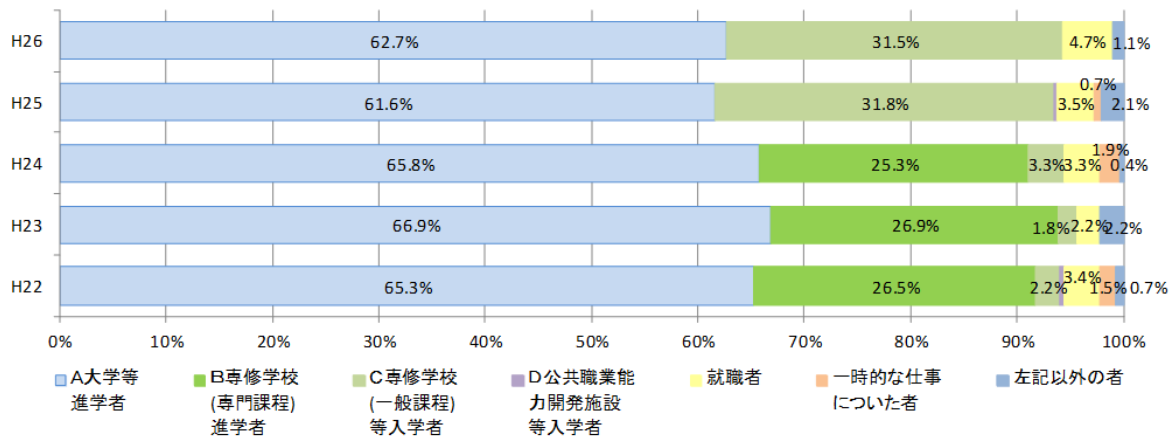


図 34 須恵町の高等学校卒業者の進路推移（資料：学校基本調査（文部科学省）)

iii) 保育所待機児童数

須恵町の保育所の待機児童数は、平成 20 年までは 0 人だが、平成 21 年以降増加しており、平成 27 年には、128 人まで増加している。

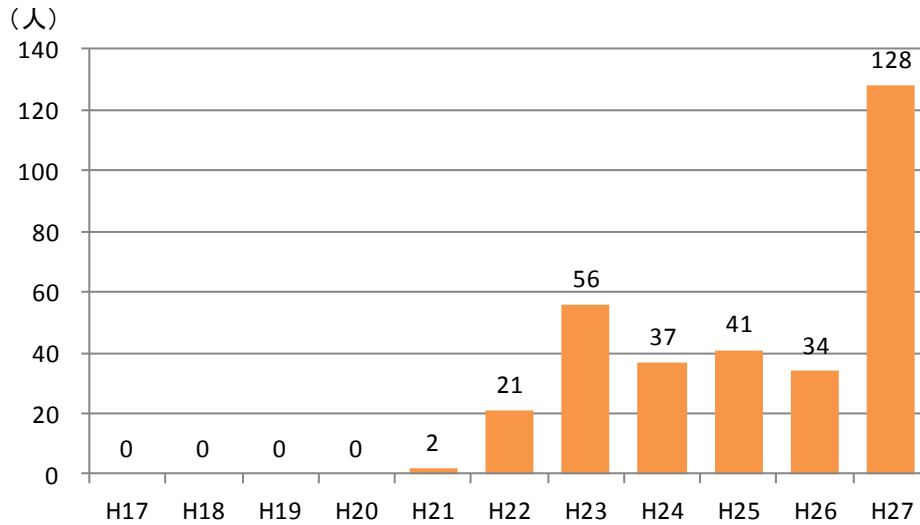


図 35 保育所待機児童数

(資料：統計でみる市区町村の姿（総務省）、保育所等関連状況取りまとめ（厚生労働省）)

iv) 共働き率・3世代同居率

須恵町の家族世帯の共働き率（※）は、53.3%と約半数となり、福岡県（54.5%）、全国値（56.6%）とほぼ同じとなる。

また、三世帯同居率は10.4%となり、福岡県（5.8%）、全国値（7.2%）より高く、福岡市（2.6%）と比較すると、約4倍の値である。

※夫または妻が就業者のうち、夫婦共に就業者の世帯割合

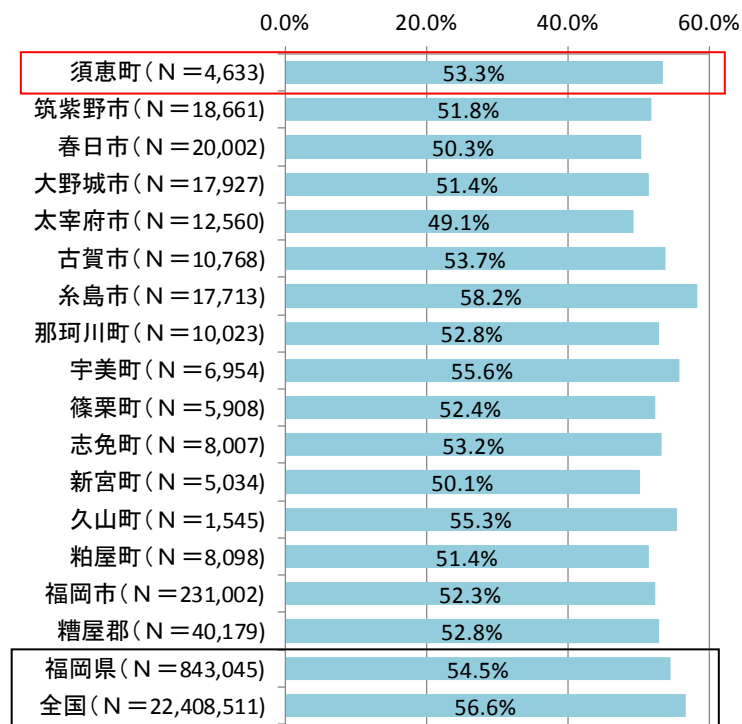


図 36 須恵町および周辺市町村の共働き率 (資料：平成 22 年度国勢調査)

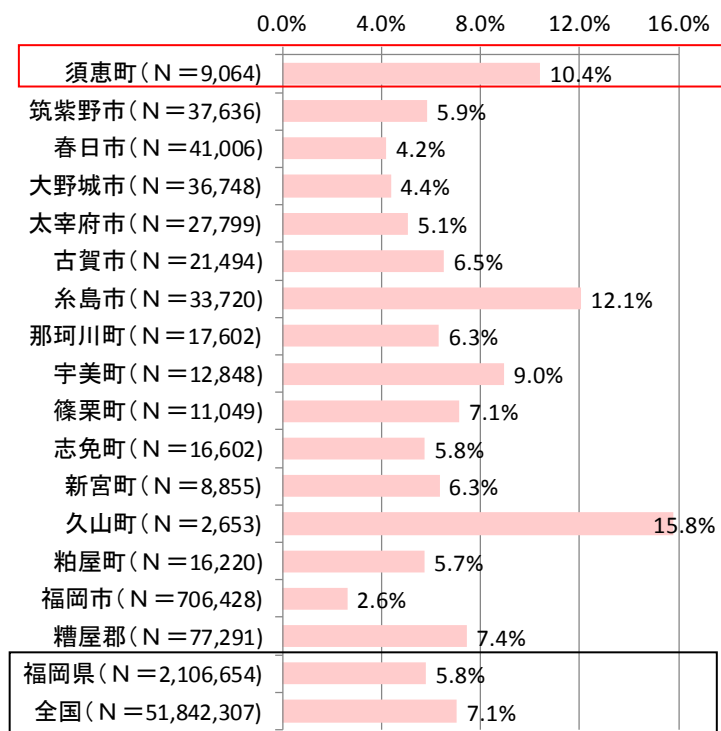


図 37 須恵町および周辺市町村の三世同居率
(資料：平成 22 年度国勢調査)